自治会ニュース

No36

全学自治会中執情宣部 9/21

昨日の府学連デモ(350)をステップに
10.6大阪労学一万人集会=8羽田現地斗争=佐藤の訪ベト阻止へ各クラスは隊列を整備せよ！

――ベトナム=安保研の展開を！

――10.8羽田斗争、クラス代表派遣の街頭カンパを！

昨日の「佐トの東南アジア訪問阻止」大阪府学連第一行動は、三五〇名の学友（市大一三五）を結集し、果敢なデモンストレーションを斗われた。機動隊の挑発、暴行と、隊列内部の一部混乱分子の存在にもかかわらず、われわれのスクラムを崩すことはできなく、規律ある闘いぶりは、われわれの抗議の意志と斗いの決意をあらわした。

昨日の斗いの意義の第一は、佐ト内閣が、自らの帝国主義路線を積極的に展開する体制に規定されて、それに対する我々の側の抗議の意志を、内外に明らかにすることであった。即ち、佐藤内閣が、この秋に、昨日からの第二次東南アジア訪問、10・8に南ベトナムを含む、第三次東南アジア訪問、11月上旬に訪米という外交路線を展開し、昨日は、その起点であった。

佐ト内閣は、この一連の外交の中で何を行うのか。第一に、南ベトナムを頂点とした東南アジアの「政治的不安定」へベトナムにおいては、すでに支配が崩壊しつつある」の中で4億ドルの手みやげを持ち出された意識である。それは、ベトナムにおける「平定計画参加」＝資本輸出であり、その他の地域における「経済的安定」を中心とした、アメリカの、東南アジア支配に対する下からの支援と、それを通じての、自らの新植民地主義的進出である。第二に、日米において、それらの東南アジア支配の体制を、ジョンソンと強化する方向である。これらの事実は、日米安保体制の侵略性の増大としてあり、安保体制の強化を通じて行われるが故に、70年安保への重大な布石として存在するのである。

昨日の斗いは、その意味で、秋の斗いの起点であった。我々の隊列を、さらに強化し、10・6大阪労学一万人集会、10・8佐藤訪ベト阻止羽田現地斗争へ発展させなければならない。10・8の羽田現地斗争に市大から大量派遣し、現在の学生戦線の分断化に対し、課題別の各党派を合せた斗争として展開されなければならない。

学友諸君！この困難は試験の中ではあるが、早急にその体制を、作り上げようではないか。それは、第一にクラスにおける討論である。（討論資料はあります）第二に、ベトナム安保研究会である。第三に、各クラスの羽田派遣体制を準備し、街頭へカンパに進出することである。すでにLTIは19日、LTCは本日進出する。

代議員会 9月23日（土） 1:30～ 211教室